

2020年のハッジ（大巡礼）は異例の対応

2020年のハッジは新型コロナウイルス感染拡大の影響から、国外からの巡礼者の受け入れは行わず、国内居住者約1,000人のみが参加する異例の対応となった。例年、200万人を超える巡礼者が参加しており、2019年は、国外からの巡礼者185万人を含む、計248万人が参加している。建国以降、国外からの受け入れを実施しなかったのは初めてと言われているが、安全面を第一とした今回の判断は、中東諸国を中心に賛同する声が寄せられた。

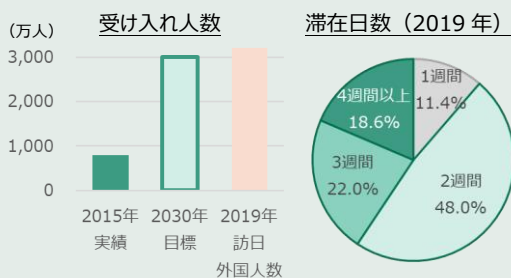
ハッジ（大巡礼）とウムラ（小巡礼）

ハッジは、毎年定められた時期に実施する巡礼であり、イスラム教の5行*の1つ。イスラム教徒は、健康や資金面での条件を満たしている場合、一生に一度実施する義務がある。ウムラは、年間を通していつでも実施することが可能である。
*5行の他の4つは、①信仰告白、②礼拝、③ラマダン月の断食、④喜捨。

ウムラ（小巡礼）の国外からの受け入れ人数の目標は3,000万人

聖地巡礼については、ウムラの国外からの受け入れ人数を、年間800万人（2015年）から3,000万人（2030年）に拡大する目標がVision 2030に掲げられている。3,000万人という数字は、2019年の訪日外国人数と同水準となる。また、観光産業の観点から言えば、国外からのウムラ参加者のサウジ滞在日数は、注目に値する。巡礼省のデータによると、ウムラ参加者のうち、2週間以上滞在した人の割合

国外からのウムラ参加者：



(サウジ統計庁の公表データより日サビジョンオフィス作成)

は、88.6%となっており、単純計算による1人当たりの滞在日数は17.3日となる。訪日外国人の平均宿泊日数8.8日と比較すると、ウムラ参加者の滞在日数の長さを見て取ることができる。

観光産業の柱として拡大が期待される聖地巡礼

サウジアラビアは、Vision 2030発表以降、産業の多角化の1つとして観光産業にも力を入れており、2019年9月に観光ビザが解禁された他、国内観光地の整備が急速に進んでいる。前述の通り、毎年一定数の国外からの巡礼者と、長期の滞在日数が見込まれることから、今後は、巡礼前後の時間を、いかに国内観光に誘導できるかが、観光産業拡大の鍵となると考えられる。

観光分野を育成していく上で、巡礼を柱とした発展は、聖地を有するサウジアラビアが持つ、世界唯一かつ最大の強みである。観光客を受け入れてこなかったサウジの観光産業は、スタートを切ったばかりであるが、固有の強みを活かした産業の成長に期待がかかる。(2020年7月)

お問合せ先

日・サウジ・ビジョンオフィス・リヤド

Address: 5th Floor, Council of Saudi Chamber Building, Riyadh 11614

Tel: +966-11-219-9155 E-mail: infovo@sj-visionoffice.jetro.go.jp

Website: <https://www.jetro.go.jp/sj-visionoffice/>